

令和5年度第1回大船渡市防災学習ネットワーク運営協議会 議事要旨

開催日時	令和5年5月17日（水）午後1時30分～午後2時30分
開催場所	大船渡市役所 議員控室
出席者	委員8名 千葉洋一委員、佐々木伸一委員、金野律夫委員、齊藤賢治委員、鈴木満広委員、江刺雄輝委員、今野勝則委員、伊藤真紀子委員 事務局 防災管理室（佐藤室長、山田次長、佐藤主幹、今野係長、吉田主事）
議題（案件）	1 開会 2 会長及び副会長の選任について 3 協議 （1）令和4年度事業の実績について （2）令和5年度事業計画（案）について 4 その他 5 閉会

1 開 会

2 会長及び副会長の選任について

会長に柴山明寛委員、副会長に千葉洋一委員を選任した。

3 協 議

(1) 令和4年度事業の実績について

事務局より、資料1のとおり説明した。

<意見・質疑応答>

○ 江刺委員

前回の会議で、地域公民館などの団体も、このネットワークに取り込んでいくといった話があった。キャッセン大船渡においても、防災観光アドベンチャープログラムを作って、津波避難を疑似体験できるイベントを実施している。こうした団体等を取り込んでいくための働きかけなどは行っているのか。

今後、このネットワークをどのように運営していくかという、方針の根本にも関わってくると思うが、交流と防災、観光をセットにした取組をしている団体もあるので、今後の活動の参考にさせていただければと思う。

→ 事務局

このネットワーク事業自体が始まったばかりということもあり、令和4年度中にもう少し活発な活動ができれば良かったのだが、なかなかネットワークの範囲を広げるところまでいっておらず、今後、活動の活発化によりネットワーク拡大を検討していきたいと考えている。

(2) 令和5年度事業計画（案）について

事務局より、資料2のとおり説明した。

<意見・質疑応答>

○ 鈴木委員

防災学習アーカイブスの充実の予算規模であるが、令和4年度の事業実績においても同規模の決算が計上されていたが、こういったものに使われるのか、毎年、同規模の予算措置が必要なのか、教えていただきたい。

→ 事務局

アーカイブシステムを格納しているサーバーの維持管理費として、サーバー機器のレンタル料のほか、システムのアップデートなどの保守料金費用であり、毎年、同規模の予算措置が必要になるものである。

○ 齊藤委員

震災の記憶や教訓等の記録・保存というところで、大船渡津波伝承会所有の資料を大船渡市観光物産協会に提供したいと考えている。津波伝承を続けていきたいが私自身高齢になってきており、大船渡津波伝承会だけで続けていくのは難しい。常設展示できれば良いと考えているが、おおふなぼーと展示室は、借用できる期間が2週間以内と決められている。できるだけ長い期間、写真や映像等を展示して、お客さんを迎えられるようにしていただければ、ありがたい。

→ 事務局

大船渡津波伝承会所有の資料は、大変貴重なものである。

令和5年度の事業計画に盛り込んでいるが、おおふなぼーとの第3分類への登録の取組の中で、津波伝承に関する常設展示の検討と併せて、防災管理室、土地利用課、市観光物産協会の3者で話を進めていければと考えている。

○ 鈴木委員

現在準備を進めている段階であるが、市立博物館では、別紙チラシのとおり、所蔵している震災に関する資料を防災学習ネットワーク参加団体などに無料で貸し出したいと考えている。

よみがえる大船渡展を実施した際に寄贈いただいた、東京藝術大学の学生が描いた東日本大震災後の風景スケッチ50点や加茂神社前から撮影した市街地の定点写真のほか、全国から市に寄せられた見舞い品、津波映像などの資料を貸し出し可能とするので、積極的に活用いただきたい。具体的には6月下旬ごろ、貸し出しリストなど含めてホームページに掲載したいと考えている。

○ 佐々木委員

事業計画の中で、小中学校に対して防災教育につながるよう、施設活用のモデルプランを提案いただけるのは、大変ありがたいことである。提案時期が6月と12月の2回あるが、この意図は何か、内容が違うものになるか。

→ 事務局

小中学校の年間行事は、前年度の12月、1月あたりにはある程度決まってくることを、学校教育課長、教育研究所から伺っている。そのため、6月には一旦周知も兼

ね、モデルプランを提案し、活用できる機会があれば使っていただきたい。また、12月の提案をもって、翌年度の学校行事に組み込んでいただければと思う。

○ 今野委員

ゲートウェイ機能の部分をもっと詰めていくべきという意見が毎回出ている。

また、防災観光アドベンチャーゲームは、教育旅行の商品としても一つの売りになると思うので、取組の中に入れても良いかと思う。

→ 事務局

防災観光アドベンチャーゲームなどの取組を取り入れていくことも検討していく。

まずは、本年度事業を着実に実施しながら、ネットワークの拡大についても、徐々に進めていきたい。

○ 伊藤委員

市内の小中学校全校において復興教育を行っている。各学校の成果を見ると、出前授業により震災当時の様子を学習したり、避難行動を学習することで自分の身を守る、災害に備えるといったことについて学んでいるようである。今後も出前授業や事業計画にもある施設活用の提案といった取組を積極的に行っていただきたい。

→ 事務局

特にも小中学生、津波を体験していない子供たちへの津波伝承や防災学習は、非常に大事だと考えている。今後、事業を展開していく中で、小中学生に対する防災学習の取組に教育委員会と連携しながら注力していきたい。

○ 金野委員

先日、大阪から陸前高田市の津波伝承館を見た後、当市の防災学習館を訪れた女性の方がいた。館内をガイドしたが、実際震災時の避難所であり、当時のまを直に肌で感じられ、大変貴重な体験ができたとお言葉をいただいたところである。

→ 事務局

そういった意味でも、事業計画に防災学習ツアーを盛り込んでいる。市内だけでなく市外の方に対しても、津波伝承施設などのPRを常にやっていかなければならない。防災学習ツアーは、防災学習館をメインにもしているのので、実施に向け、赤崎地区振興協議会と内容を詰めていきたい。また、こういったツアーを実施することでネットワークの取組を周知していきたい。

○ 千葉委員

防災学習ツアーとモニターツアー、2つの取組があるが、取組の違いは何か。

→ 事務局

整理としては、モニターツアーは、参加者からいろんな意見を聞いて、ガイドの育成や体験メニュー・モデルプランの考案につなげるよう、情報収集のために実施するもの。

防災学習ツアーは、実際のツアー商品として造成し、津波伝承及び防災学習の取組を広くPRし、いずれは旅行会社への商談まで持っていければと考えている。

○ 千葉委員

ゲートウェイという言葉は、入口という意味なのか、なかなか市民に理解してもらえないのではないか。

→ 事務局

趣旨としては、入口、窓口ということになる。ゲートウェイの役割や業務内容がまだ明確化されていないところもあるので、今年度中にある程度、業務内容や役割分担など、しっかり整理していきたいと考えている。

○ 齊藤委員

東日本大震災の記憶の風化を最近感じている。

1 か月くらい前に復興庁から地域づくりハンズオン支援事業という内容のメールが来た。

子供のうちから震災教育をやっておくことが大事であり、そのため、地域づくりハンズオン支援事業において、津波の教本を作ろうと考えている。

1 つ目に今までの三陸沿岸の地震被害、2 つ目に地震・津波はどうして起こるのか、3 つ目に津波の中はどうなっているのか、4 つ目に津波はどうして恐ろしいのか、5 つ目に津波からどうやって逃れるのか、6 つ目に自分たち自身がやること、国や市がやること、7 つ目に避難したらどうするか、避難所の生活について、8 つ目にライフラインについて、9 つ目に復旧復興について、最後に津波伝承・継承、これらを取りまとめて作りたい。事業として採用されるか分からないが、小中学校に配布して、これからの社会人のために役に立ってもらえればと考えているところである。子供たちに受け入れられるように内容も変えていきたいと思っているので、教育委員会の方々からのご指導もいただければありがたいと思っている。

○ 齊藤委員

市がお金を投入して、ガイド養成の取組を実施してほしい。

→ 今後、検討していきたい。

4 その他

事務局から「東日本大震災追悼施設整備方針」について、別紙資料により報告した。

5 閉 会